

グループをチームに育てるプログラム研修会 ～『個』を引き出すアプローチ～

〔主催〕 国立諫早青少年自然の家

〔後援〕 長崎県バスケットボール協会

〔期日〕 令和4年6月25日（土）10:00 ～ 16:00 日帰り

〔活動場所〕 国立諫早青少年自然の家 第1学習室

〔参加者〕 スポーツ指導に関わっている方、子供の指導に関わっている方
6名（男性4名、女性2名）

〔講師〕 後藤 慶太（国立諫早青少年自然の家次長 元長崎西高等学校男子バスケットボール部監督）

〔担当職員〕 東島 憲之、西田 尚由、稲原 諒馬

1) 趣旨

スポーツの指導においては、子供の将来を見据えたコーチングスキルを身につけたスポーツ指導者の育成が必要である。そこで、スポーツ指導者を対象に、体験教育・アドベンチャー教育の基本となる手法や理論を体験的に学び、子供の可能性を引き出す指導の在り方や関わり方を学ぶ事業を実施する。

2) 目標

- ① 発言しやすいチーム作りのために、諫早コミュニケーションアドベンチャープログラム（以下 I-CAP）で実践している手法（アイスブレイク・ディインヒビタイザ）を体験し、スポーツ指導時に活かせることを考える。
- ② 「コンテンツとプロセス」について理解するために、I-CAP で実践している手法（イニシアティブ）を体験し、スポーツ指導時に活かせることを考える。
- ③ 個を引き出すコーチングについて、実践者の事例を聞き、考え方を学ぶ。
- ④ 「チャレンジ」（個の成長）について理解するために、I-CAP で実践している手法（イニシアティブゲーム）を体験し、スポーツ指導時に活かせることを考える。

3) プログラム

| 1日目 | |
|-------|---------------------------------------|
| 10:00 | 開講式 |
| 10:10 | セッション1 「発言しやすいチーム作りには、何が必要？」【写真①】 |
| 11:10 | セッション2 「チームチャレンジでは、何が起こるのか？」 |
| 12:10 | 昼食 |
| 13:10 | セッション3 「個を引き出すコーチングとは？」 講師：後藤 慶太【写真②】 |
| 13:40 | セッション4 「個を引き出すアプローチについて考えよう」【写真③】 |
| 15:20 | セッション5 「ふりかえり」 |

4) 事業展開



①アイスブレイク



②講義
「個を引き出すコーチング」



③カプラを使った個人と
グループのチャレンジ

5) 評価

① アンケート結果（事業全体に対する満足度）

| 満足 | やや満足 | やや不満 | 不満 |
|-----|------|------|----|
| 84% | 16% | 0% | 0% |

② 参加者の声

- ・チームと個人の視点を実際の体験から考えることができ、実際の指導をイメージできた。
- ・目指したいグループ像や指導方法について、参加者間でいろいろな意見交換ができた。
- ・新しい視点で自分の専門種目について考えることができた。

6) 成果と課題

① 成果

- ・各セッションの目標を明確にし、活動数と講義内容を前年度より絞ったことにより、体験から学ぶことを重視できた。
- ・種目や年齢がバラバラの参加者の構成となり、グループでの意見交換が有効だった。

② 課題

- ・参加対象を教員に限定せず、初めてスポーツ指導者としたが、関係団体の年間計画等の情報収集が不十分だったため、試合や講習日程と重なり参加者が少なかった。
- ・参加者情報について、種目以外に対象年齢や経験年数、指導レベル等の情報も必要だった。
- ・ふりかえりの視点、参加者に何をもち帰ってもらうかのゴール設定が不十分だった。



目標4 質の高い教育をみんなに

自然体験活動を通して、リラクゼーションを図り、今後の QOL 向上のきっかけとする。



目標4 質の高い教育をみんなに

自然体験活動を通して、リラクゼーションを図り、今後の QOL 向上のきっかけとする。